

合格体験記

- | | | |
|----|------------|---------------------|
| 1 | 合格体験記 | 京都大学医学部人間健康科学科看護学専攻 |
| 2 | 信念のもとに | 名古屋大学農学部資源生物科学科 |
| 3 | 受験を終えて | 広島大学教育学部第二類数理系コース |
| 4 | 合格体験記 | 静岡大学理学部化学科 |
| 5 | 大学受験について | 長崎大学薬学部薬学科 |
| 6 | C判定からの合格 | 熊本大学法学部法学科 |
| 7 | 受験生活を振り返って | 熊本大学法学部法学科 |
| 8 | 苦しくも楽しめた受験 | 鹿児島大学法文学部法政策学科 |
| 9 | 焦らず地道に | 鹿児島大学法文学部人文学科 |
| 10 | 受験を終えて | 鹿児島大学法文学部経済情報学科 |
| 11 | 目標を掲げて | 鹿児島大学共同獣医学部獣医学科 |
| 12 | 合格体験記 | 北九州市立大学外国語学部国際関係学科 |
| 13 | 合格体験記 | 福岡女子大学国際文理学部環境科学科 |
| 14 | 歴史から学ぶ | 福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 |
| 15 | 合格体験記 | 早稲田大学国際教養学部 |

合格体験記（1）

合格体験記

京都大学医学部人間健康科学科看護学専攻

（担任のコメント）自分の信念をしっかり持って、自主的に学習に取り組み、周囲のアドバイスに素直に耳を傾けていた。自分のやるべきことを計画的に確実に実行することで、難関の京都大学合格を勝ち取った生徒である。

今振り返ってみると、あっという間の3年間でした。私はあまり受験勉強を辛いとは思いませんでした。それは、目の前にあるやるべき事をとことんマイペースに確実にこなしていただけだったからです。音楽を聴くことが好きだったので、受験勉強の合間などに気分転換に聴いたり、睡眠を人より長く取ったり、好きな場所で勉強をしたりしていました。また、考査や模試などで順位に変動があってもあまり気にせず、自分の力だけを信じて、ひたすらできる限りの勉強をしてきました。だから、後輩の皆さんも自分に合った、自分に可能なスタイルを見つけてみてください。

また、今回合格することができたのは、自由な選択に賛成し、応援やサポートをしてくださった先生方や家族の存在があったおかげでもありました。2次試験の科目が多くて、センター試験後は忙しくなりましたが、各教科の先生方はいつでも温かく励ましてくださいました。

これからは、そうした周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、大学で立派な人間になるつもりです。

後輩の皆さんも、素直な気持ちと感謝の気持ちを忘れず、自信を持って頑張ってください。応援しています。

合格体験記（2）

信念のもとに

名古屋大学農学部資源生物科学科

（担任のコメント）1年次から学習量が豊富で、課題等も一切手を抜かずに取り組んでいた。当たり前のことを当たり前にならせば、志望校合格に繋がる学力が確実に身につくことを証明してくれた生徒である。

僕は「進学校」というものがどういうものか全く分からずに中央高校に入学した。そのせいで、入学後の勉強や課題の量に圧倒され、毎日泣きながら机に向かっていった。今思えば、このことが受験の役に立っていたのかもしれない。僕は1年生のうちから、とにかく勉強しない日を作らないように、課された課題は提出するように心掛けた。受験勉強の鍵の1つは勉強を毎日習慣づけることだと思う。

3年生になると模擬試験が増えるが、その結果に一喜一憂してしまったことを後悔している。特にセンター試験直前の模擬試験で思うような結果が出ず、焦る気持ちが強くなってしまったが、先生方に励まされ、とにかく今までの勉強のペースを崩さないように努めた。毎日の積み重ねは確実に力になると実感した。

最後に、勉強を習慣づけることは今すぐにでも可能なので、出していなかった課題を出すことからではじめてみてください。そして受験のプロフェッショナルである先生方の言うことを素直に聴いて、受験勉強に取り組んでください。

合格体験記（3）

受験を終えて

広島大学教育学部第二類数理系コース

（担任のコメント）1年生の頃から部活動と学習をしっかり両立させて、地道に努力を積み重ねてきた。常に安定した取り組みで、何事に対しても前向きに考える姿勢が印象的な生徒であった。

大学受験を終えて感じたことは、日々の積み重ねが大切だということです。

1・2年生の頃は部活動中心の生活で、予習や宿題もギリギリで終えて提出するような状態でした。ですが、部活動に行けなくなってしまうような放課後の再テストや赤点補習を避けるために、日々の小テストの勉強や定期考査前の総復習は、欠かさずするように心掛けていました。これらの少しずつの積み重ねのおかげで、自分はある程度の単語力を身につけることができましたし、大きな苦手分野もない状態で3年を迎えることができました。

3年生になり部活動を引退してからは、夏休みも休日もほぼ毎日学校の学習室に通いました。先生方から応援の言葉をいただいたり、昼食時間に友だちと話したりすることで、自分のやる気もアップしました。

今思えば、こうしてコツコツと勉強を続けてきたことで、自信もついたり、合格という最高の結果を迎えることができたのではないかと思います。また、自分が合格できたのは、クラスメイトのみんな、両親、先生方の支えがあったからこそだと実感します。すべての人に感謝を伝えたいです。

後輩の皆さんが、充実した高校生活を送り、志望する進路に進めることを心から願っています。感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください。

合格体験記（４）

合格体験記

静岡大学理学部化学科

（担任のコメント）揺るぎない信念を持ち、たゆまぬ努力をした生徒である。アドバイスには素直に耳を傾け、実行し、着実に力を付け、努力は実るということを証明した生徒である。

3月6日に、今まであった不安はなくなり、自分の努力が報われたことをとても嬉しく感じました。合格発表までの不安を抱えていた自分を支えてくれた先生方や家族、友だちには本当に感謝しています。

僕は第1志望の大学に合格することができましたが、後悔していることもいくつかあります。まず、一番後悔していることは、1・2年の頃の課題に対する取り組みです。特に後悔している教科は英語です。1・2年生のリーマラや休日課題はただ終わらせることだけを考えると、内容や本質を考えずにやり続けた結果、3年最初のマーク模試で、それまで取ったことのないようなひどい点数を取ってしまいました。ここから人並みの点数を取れるまでの道のりは決して楽なものではありませんでした。自分のレベルに合った長文を読み、解説を熟読し、自分専用の参考書を作っていくことを繰り返すことで、なんとかセンター試験までには人並みな点数を取ることができるようになりました。

僕が新3年の後輩たちに伝えたいことは、1・2年生でサボった過去の爪痕はこれからの結果にも出てくると思いますが、3年生の1年間を本当に頑張ればどうにかかります。努力し始めるのが早ければ早いほどなおいいます。

新2年生に伝えたいことは、3年生で楽をしたいならば、2年生のうちに少しでも努力すれば、少しは楽をできるということです。自分の目標に向かって頑張ってください。

合格体験記（５）

大学受験について

長崎大学薬学部薬学科

（担任のコメント）部活動引退までは学習時間も十分に確保出来ず、成績も低迷していた。7月以降、目を見張る豹変ぶりとそのエネルギーな取り組みで見事に志望学部学科に合格できた。

私が本格的に受験勉強を始めたのは、部活動引退後の7月頃です。引退直後は虚無感から学業に打ち込むことができませんでした。そんな私に受験勉強を始めるきっかけをくれたのは50期の仲間でした。夜遅くまで学習室に残って勉強する友人を見て、自分もやらねばという気持ちが湧いてきました。まずは基礎固めから、そして徐々に演習に移っていき、同時に苦手分野の克服に努めました。それまであまり勉強していなかった分、はじめのうちは順調に点数が伸びました。しかし、ある程度のレベルに到達すると、それまで通り努力しても反映される結果はいまいちという時期に入りました。そこからは自分自身との勝負で、支えてくれる人たちに対する感謝の気持ち、周囲の期待、成功する自分の想像など、あらゆるものを自分のエネルギー源として努力を続けることができました。家族とともに体調管理に気を配り、ベストな状態でセンター試験に臨むことができました。自己採点の結果は可もなく不可もなくという感じで、2次試験まで気を抜かず努力を続けることができました。2次試験は、できた科目とそうでない科目があり、合否の可能性は半々だと考えていました。しかし、休む間もなく中後期日程試験は迫ってくるので、前期は落ちたものと考え、対策に努めました。合格した今でもそれらの取り組みが無駄だったとは思いません。支えてくれた多くの人への感謝の気持ちと、自分の行為が正しかったという気持ちを噛みしめて、この合格体験記を書いています。「努力なくして得られる成功はない!」。後輩の皆さん、頑張ってください。

合格体験記（6）

受験を終えて

熊本大学法学部

（担任のコメント）フェリーで通学し、時間的にも体力的にも苦しい中、バドミントン部に所属。文武両道をやりきった。最後まで粘り続け、自分の目標を見事貫いた。

センター試験自己採点后に返却された判定はC判定。それは受かるかどうかのギリギリの判定。出願校をA判定が出ている大学へ変更するよう何度も両親に説得され、正直、迷った。けれども、法律を幅広く学ぶことのできる熊本大学法学部へ進学したいという一心で勉強してきた私は、自分の信念を簡単に曲げることはできず、後期日程試験でA判定の出ている大学を受験するという条件で、C判定からの逆転を目指すことにした。大変だったのはそこからだった。思うように2次力が伸びず、添削指導を受けてもダメ出しの連続で心が折れそうな日々が続いた。「こんな2次力で本当に勝負できるのか？」といった不安と重圧に押しつぶされそうだったが、家族や友人の支えや励ましもあって何とか最後までくじけることなく勉強を続けることができ、入試本番でも自分なりにベストを尽くすことができた。

そして合格発表当日。インターネットで自分の受験番号を見つけたときの感動は、言葉にできないほど心の底から嬉しいものであった。第一志望校に合格することができたのは、決して自分一人の力だけではない。入試本番当日、熊本まで応援に来てくださった担任、最後まで英作文の指導をしてくださった先生、「お前ならできる！」といつもエールを送ってくれた友人、そして、心配しながらも最後まで温かく見守り続けてくれた家族の支えがあって勝ち取ることができた合格だと思う。C判定からの合格。それは運や様々な偶然が重なった奇跡かも知れないが、巡ってきたチャンスを決して無駄にしないよう、大学でも精一杯頑張りたいと思う。

合格体験記（7）

受験生活を振り返って

熊本大学法学部法学科

（担任のコメント）早朝から登校し、自学自習、音楽部に所属し、文武両道をやりきった。チャレンジ精神が強く、どんな状況であろうともコツコツと攻め続け、見事合格。

私の受験生活は決して順調だったとは言えません。7月下旬まで部活動をしていた私は、既に引退したクラスメイトに比べて勉強が遅れていると感じましたが、依然として予習と宿題に追われていました。引退後は人一倍勉強しようと思っていました。しかし、実際は逆でした。勉強になかなか集中できず、毎週のように受けた模擬試験の結果を見るたびに肩を落としました。秋から年末にかけては魂が抜けたような生活を送る日々もありました。1月、やっと元気を取り戻して勉強も追い込みましたが、センター試験本番の自己採点結果を見る限り、熊本大学を受験するには安全とは言えませんでした。しかし、2次試験では国語と英語で勝負できると思い、最終的に熊本大学を受験校にしました。それからは毎日2教科の対策でした。特別授業が最終段階に入る頃、特に英語の過去問が簡単に感じられるようになりました。しかし、2次試験当日、予想外の難問が出題されました。おまけに国語も手応えがなかったため、帰りの新幹線で落ち込みました。3月7日、大学のホームページで自分の受験番号を見つけたときは本当に信じられませんでした。今考えると、学校をほとんど休まず日頃の授業を大切にすることが合格に繋がったのだと思います。先生方や家族、友人の応援も大きな力になり、本当に感謝しています。

最後に、私の高校生活をずっと支えてくれた大切な言葉を皆さんに贈ります。

「未来の君は今の君の頑張りにきっと感謝する」 皆さんの未来に幸あれ！

合格体験記（8）

苦しくも楽しめた受験

鹿児島大学法文学部法政策学科

（担任のコメント）誰よりも早く受験生になることを決意し、一歩早いスタートを受験結果に繋げることを心に決めて合格を手にした。「対心一処」の模範でもあった。

これから述べるのは中央高校の底辺層の受験体験記です。参考にならないところも多々あると思います。

まず私は1年・2年次は、中央生として決して真面目とは言えない生徒でした。数学で赤点を数回とり、授業中も居眠りで先生方によく注意されていました。3年生になったら勉強するから今はしなくていいやと思っていました。（今となっては非常に後悔しています。後輩の皆さんはそう思わないでください（笑））

私はバドミントン部に所属していましたが、人数の関係で最後の大会には出場できませんでした。そのため、最後の中玉戦が終わった5月のはじめから受験生になりました。部活動では負けていた人たちに勉強で圧勝してやろうという野望を胸に学校の図書館に籠もりました。第1志望は大学のバド部が盛んだとかねてから聞いていた熊本大学の法学部でした。疚しい動機でした。でも本気でした。仲間を連れて県図書、市図書に夜9時まで通い詰めました。夏には熊本大学のオープンキャンパスに参加し、自分の志望を更に高めました。それらが功を奏し、模擬試験での結果もぐんと上がり、受験勉強を楽しむことができました。しかし、そんなに順調にいかないのが受験です。秋からの成績の上昇に翳りが顕れ始めました。苦しいながらも勉強するしかないしと耐えに耐え勉強を続けました。結局、センター試験の結果で鹿児島大学に変更しましたが、受験を通して、「目標を持っていたからこそ頑張れること」、「苦しくても耐え、あきらめないこと」など大切なことを学ぶことができました。後輩の皆は中央の先生方を信じ、自分の目標を明確に持ち、努力してください。

合格体験記（9）

焦らず地道に

鹿児島大学法文学部人文学科

（担任のコメント）小テストや課題も確実に、素直にコツコツ、決して手を抜かない生徒であった。センター試験で自己ベストを大幅に更新し、危なげなく志望校合格を勝ち得たのも当然の結果である。

大学受験を振り返ると、計画性も強い目標もなかったなと思います。志望校も途中まであやふやな状態だったし、思い立った教科の勉強をしていました。それでも勉強する意欲だけはあったおかげで合格できました。受験における一番的は焦りだと思います。焦った状態で勉強してもあまり頭に入らないし、「何からしよう」「どうしたらいいだろう」と慌ててしまい時間を無駄にすることもあります。志望校があやふやでも、おのずと決まってくるものだし、思い立った教科でもやれば、それは受験勉強になります。色んな焦りが生まれると思いますが、その焦りに勝つことが大事だと思います。

また、自分の勉強のリズムを保つことも大事だと思いました。私は周りと比べれば、寝る時間は早かったので、勉強時間も少ない方でした。でも寝る時間を削ると学校で寝てしまうので、周りよりはやくてもそれは変えませんでした。自分の集中できる時間に集中してやればいいと思います。

受験勉強は大変だったけど、あっという間に終わりました。試験当日の朝、試験会場へ行ってもまったく緊張せず、試験が始まって模試のような感覚でした。「やるだけやったな」という気持ちがあれば、自信はなくても、落ち着いて試験に挑めると思います。私はそのおかげで落ち着いてできました。

そして、担任や教科担の先生、家族や友だちみんなに感謝しています。ご指導や応援ありがとうございました。後輩のみんなが望む進路に進めることを願っています。

受験を終えて

鹿児島大学法文学部経済情報学科

（担任のコメント）部活動引退後、受験勉強に真剣に打ち込んでいた。昼食時、学習室で勉強する姿をみて、他の生徒も真似るようになった。志望校への現役合格を強く望み、日々実行することで合格を勝ち取った生徒である。

僕は、2年生の頃模擬試験で志望校のC判定にすら届きませんでした。でも、まったくと言っていいほど慌てることもなく、周りの友だちも特に気にしていないようだったので、あまり勉強もせず、部活動ばかりしていました。

部活動にばかり集中して勉強を疎かにしていた日々は中玉戦で終わりました。みんなより早く部活動を引退して、やることを見失っていました。他の友だちは部活動をまだ頑張っていて、自分も何か頑張らないといけなと思い始めました。それから放課後は毎日学習室に通い、苦手な数学を克服するために頑張りました。国語と英語は音読すれば読むことが簡単になると先生に言われたので、リーマラとはまた別に毎日読むことにしました。夏休みは朝から夕方まで市立図書館に通い、往復の電車で単語を覚え、帰宅後は音読に努めました。それからは先生方の配ってくれた教材で、センター演習を繰り返すことで成績を上げていき、合格することができました。

受験が近づくにつれて緊張や不安は高まっていくと思いますが、自分が今までどれくらい頑張ってきたか自分で分かっているならば、当日は底まで緊張することはないと思います。辛いことや苦しかったことが試験当日に自身に変わるようになるように死に物狂いで頑張ってください。レッツ気合い。

目標を掲げて

鹿児島大学共同獣医学部獣医学科

（担任のコメント）獣医師になりたいという明確な目標のもとに、的確な自己分析で自信の学力を冷静に判断していた。反省を踏まえた継続的な取り組みで、難関の獣医学科に合格した生徒である。

僕は、出身が徳之島という小さな島で、父が獣医であることに影響されて、獣医を目指し、鹿児島中央高校に進学してきました。1年生の時から、目標がはっきりしていたので、毎日勉強しなければいけないという思いがあったために、しなければならないことをしっかりこなすことができました。もちろん、できなかったこともありましたが、その時の後悔が次のバネになりました。

3年生になって、模擬試験を受ける中で、ほとんどの判定があまりいいものではありませんでしたが、かねてからの夢であったため、諦めずに頑張ることができました。センター試験では、あまり緊張せずに取り組めたので、目標以上の点数を取ることができ、2次試験でも逃げ切ることができました。

合格できた今、本当に必要だと思うことは、やはり目標を早く見つけることだと断言できます。早く目標を見つければ、何をすべきかはっきり分かるからです。これからも何をすべきか考えながら頑張っていきたいと思います。

合格体験記

北九州市立大学外国語学部国際関係学科

（担任のコメント）様々な行事や活動にクラスの誰よりも積極的に参加し、クラスの団結力を強めた。何事にも一生懸命に取り組む姿勢と志望校への強い思いが充実した高校生活進路実現に繋がった。

受験生として格闘したこの1年間。毎日が慌ただしく過ぎたせいか、とてもあっという間であった。多くの模試やその訂正に追われ、くじけそうになることも多々あったが、ここまでやってこれたのは一所に闘ってくれた友人や担任の先生をはじめとする学校の先生方のおかげである。まず、私と受験生活を共にしたすべての人にありがとうと言いたい。

高校2年生のはじめから私はこの大学を志望した。しかし、その当時の私の成績は大学の偏差値とはかけ離れていた。そうしてもこの大学に行きたい、ただその一心でここまでやってきた。3年生になり、私の成績はどんどん伸びた。クラスや学年の順位も上がっていき勉強が楽しくなった。しかし、模試によって上がったたり下がったりする成績に実力不足を感じ、それがかえってモチベーションを下げることもあり、やる気をなくすこともあった。そんなときに私を支えてくれたのは大好きな K-POP である。行き詰まったときは音楽を聴いて憧れを抱き頑張ろうと思う。とても単純だが、私には効果的であった。そんな風に歩んできた受験生活も終盤に入り、迎えたセンター試験。年末から落ち込んでいた成績がそのまま結果に出た。判定は D 判定で合格は難しいと思われた。しかし、後がなかったので二次試験までの1ヶ月、膨大な量の長文を読み、単語を覚えた。二次試験のときは最悪だった。それでも私は合格を勝ち取った。担任はいつも言っていた。神様に愛される人になれ、と。この戦いで必要なのは絶対に授かりたいと思う気持ちであったと今は思う。本当にありがとうございました。

合格体験記

福岡女子大学国際文理学部環境科学科

（担任のコメント）サッカー部マネージャーを務め、「文武両道」を見事に果たした生徒である。C-pass の記入に工夫をこらし、活用できたことが志望校合格に繋がった。充実した大学生活を存分に謳歌してもらいたい。

大学への入学手続きを終えた今、改めて合格できてよかったという気持ちがこみ上げてきます。インターネットで偶然、福岡女子大学の存在を知り、他にはない環境で学ぶことのできるこの大学に一気に惹かれ、絶対にこの大学に行きたいと思いました。その時の学力では差がありすぎて志望校と言うのは恥ずかしかったけれど、もしかしたら行けるかもしれないと考え、目指して頑張りました。最終的に、第2志望の学科を受けましたが、自分の成績よりも高い大学を目指したことが、合格に繋がったと思います。

リーマラをはじめとする多くの課題や、3年生での毎週のようにある模擬試験、先生たちからの厳しい言葉など、これからどんどん辛くなっていきますが、必ずいつか結果に結びつきます。たとえそれが第1志望の大学でなくても、現役合格でなくても、自分にとってプラスのものとなります。

最後に、鹿児島中央高校生は大学進学を当たり前のことと考えていますが、これは当たり前ではありません。受験、入学手続き、新生活準備と様々な場面で多くの労力と費用が必要になります。頑張るのは自分自身ですが、熱心に勉強を教えてください先生方や、励ましてくれる友人、そして見守ってくれる家族への感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張ってください。

合格体験記（14）

歴史から学ぶ

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科

（担任のコメント）自主的な進路研究を行い、受験意識を高めた。読書量、新聞等の読み込みで培った国語力を基に、一心不乱の学習態度で合格を手にした生徒である。

後輩の皆さんにまず伝えたいことは、「とにかく勉強してください」ということです。

下の進路先を選ぶ際の注意点でも述べましたが、やはり、偏差値の高い大学の方が、様々な仕事に就くチャンスにも恵まれます。つまり、可能性が多岐にわたる大学ということです。将来何になりたいか、まだ漠然としか決まっていな人はない人はなおさら、一応いい大学に行っといた方がいいです。もちろん、大まかな進路は決めた上で、勉強は早く始めた方がいい、大学はちゃんと調べてから選ぶ、後悔しないようにする…、どれも先生方や両親から何度も聞いた言葉だと思います。そんなの言われなくても分かってるよ！と思うでしょう。私もそう思いました。でも、受験を終えた今、耳にたこができるほど聞かされた言葉をもっと真剣に聞いておくべきだったと思っています。正確に言えば、聞いていたことは聞いていたが、心に留めておく程ではなかった。勉強の仕方は先生に聞くのが一番です。色々と思うところもあると思いますが、何度も受験に関わっている先生方の話をないがしろにははいけません。絶対に。

愚か者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ。という言葉があります。私は経験から学ぶことしかできませんでした。皆さんは、先生の話、先輩の話という「歴史」から学ぶことのできる賢者になってください。後悔のないように頑張ってください。

合格体験記（15）

合格体験記

早稲田大学国際教養学部

（担任のコメント）英語検定への努力や英語スピーチ、ディベートコンテスト等の活躍が抜群。AO入試での苦しい思いも乗り越え、センター対策もしながら見事目標を自分のものにした。

11月25日の朝、早稲田大学のAO入試が不合格であったことを、進路指導室のパソコンで知った。チャンスは多い方がいいと思って受験し、そんなに簡単にいくものではないと自分なりに理解していたつもりだったが、やはり落ち込んだ。落ち込む自分に先生が一言、「次にリベンジだ」。その言葉が自分にとっての起爆剤になったのかもしれない。この日を境に、それまでのだらしのない自分と決別した。英語や国語を基本の単語や文法から再復習し、それまで苦手としていた世界史の年代や地理的事項の暗記にも必死に取り組んだ。それでも、12月頃には国語のセンター演習でなかなか納得のいく結果を出すことができずに、本当に苦しい日々が続いた。そんな中でも、周りの人々の支えのおかげで自分を信じ続けることができた。センター試験対策や志望校の過去問を解いていく中で、これなら大丈夫だという自信もついた。結果として、センター試験は自己ベストを更新し、後の2次試験も安心して受験することができたし、何より自信が増した。そして、疾風怒濤の1月もあつという間に過ぎ、2月の試験日がやってきた。AO入試を受験していたせいかあまり緊張することもなく、ほどよい緊張感の中で試験に臨むことができた。試験の1週間後、合格速報のホームページに自分の受験番号を見つけたときの嬉しさは言葉では言い表すことはできない。今になって振り返ってみると、AO入試で不合格だったことは自分にとっては良いことだったのかも知れない。先生の「リベンジ」という言葉は、これからも自分の心に持ち続けていたいと思う。